

病院名	精神科単科or 一般病院/通常 orモデル	病床入院対象患者の規定	若年者の入院/患者層
A	一般/通常	結核確定(PCR陽性等)+疑い患者(PCR未着) (a)	若年者も少なくない
B	一般/通常	結核確定患者(PCR陽性等)	若年者も少なくない
C	一般/通常	結核と100%確定していない患者の入室もあり (逆隔離)(b)	若年者も少なくない
D	一般/通常	(質問せず)	質問せず
E	一般/通常	(質問せず)	若年者も少なくない。ホームレスは少ない。
F	一般/通常	(質問せず)	状態の悪い高齢者が主だが若年者も少なくない
G	一般/通常	(質問せず)	80以上の高齢者多い/時に若年者あり
H	一般/通常	結核疑い患者(診断つけば原則他の結核病院に 転院)	若年層も少なくない
I	一般/通常	(質問せず)	時に若年者
J	一般/通常	(質問せず)	全患者の2/3が生活保護、ホームレス患者
K	一般/通常	(質問せず)	若い方も多いが元気で家族がいる人は少ない。 寝たきりや自由移動不可患者は全体の半分。月 に10名程度死亡退院。
L	一般/通常	結核確定者のみ(疑い患者に対しては、各病棟 に陰圧室あり)	入室者すくなく質問せず
M	一般/通常	結核確定者のみ	高齢者が多い(平均69-70歳)、またホームレスが 多い。20%くらいは寝たきりで看護単位は15:1。 深夜帯の看護が過負荷になり看護師が一時大 量に離職し結核患者が入院できない事態になっ
N	精神科病院	結核確定患者のみ。原則閉鎖病棟対象者のみし か入院できないが 閉鎖病棟であることについて本人同意があれば 任意入院の患者も受けることあり。	高齢者が多く平均年齢70歳前後
O	精神科病院モ デル	(質問していない)	入院には閉鎖病棟入院同意が必要。分裂病と認 知症などが多い
P	精神科が主/ モデル	収容実績なく不明	収容実績なく不明
Q	一般モデル	疑いを含む結核患者	質問せず
R	一般モデル	結核確定者のみ(疑い患者は各病棟陰圧室に収 容)。殆どは他からの紹介患者でモデル病床では あるが合併症がなくとも受け入れ特別なことがな い限り他の結核病棟へ転院させず通常の結核病 床として機能している。	若年者もすくなくない(痴呆や重症者は管理不可 能)
S	2種病床	基本的に合併症(透析が多い)結核への急性期 対応のための入院。院内の結核疑い患者は確定 診断以前は入室しない。	質問せず
T	2種病床	院内発生の患者のみ収容が原則(結核疑いも含 めPCR結果判明まで、ないし結核病棟転院まで の期間)。	質問せず

表2.4.入院対象者と患者層

(a): 疑い患者(確定していない患者)は個室にいれ据え置き型換気装置を作動させ陰圧化する、と。確定すれば換気装置は停止させる。

(b): 疑い患者(確定していない患者)も区域ごと陰圧化されている結核病床区域の陰圧個室に収容。

病院名	精神科単科 or一般病院	モデル病床 or 通 常結核病棟	2種感染症病 床数	2種感染症病床詳細
G	一般	通常	4	は別の一般病棟内にユニットとして設置されている。ナースステー ションから遠い。結核患者ないし疑い患者収容実績はない(結核病 床よりも窓は大きく部屋は大きくて明るい)。予定されている病院建 て替えて結核病床を30床へ減床させ2種感染症病床と同じ病棟とす る予定
I	一般	通常	4	2種感染症病床は結核病床と一体になってグループ化/ユニット化 されているが感染症と結核の間には仕切り扉がある。結核と感染 症の各病床に患者をそれぞれ結核患者、感染症患者を入れること も可能との見解。室内にユニットバス設置。デング熱やインフルエン ザなどの患者収容実績あり。
L	一般	通常	6	感染症病床は結核病床の隣の病棟に設置されている、陰圧化され ているがHEPA排気の有無は不明
P	精神科が主	モデル病床(精神)	4	1階が結核病床で2階が2種感染症病床になっている。他から離れ た別棟を形成、この病棟に普段は職員はいない。
S	一般	モデル病床(一般)	6	陰圧化されていない結核モデル病床は結核患者には使用せず一 般病床として使用し、陰圧化されている2種感染症病床を結核患者 に使用している。2種病床は結核とは別の病棟に設置されている。
T	一般	結核病床なし	10	床転院までの処置だが、年間2-3例は重症で院内で治療する場合 がある。

表2.5.結核病床と2種感染症病床の関連

病院名	区画	感染粒子の除去(全排気ないしHEPA付再循環ないしその他)				外気導入回数/時間	再循環を含む換気回数/時間
		排気設備	HEPA付再循環設備	紫外線殺菌灯付再循環	詳細		
A	同一病棟内陰圧化不可能室群	なし	なし	なし	機械換気なし、換気扇なし。	対象外	なし
	同一病棟内陰圧化可能室群	あり	なし	なし	機械排気による全排気可能(a)	15回-30回(実態不明)	なし
B	同一病棟内非陰圧区域	あり	なし	なし	機械排気による全排気。	質問せず	なし
	同一病棟内陰圧区域	あり	なし	あり	機械排気による全排気+全病室空気循環式紫外線殺菌灯	最大8回(現状不明)	質問せず
C		あり	あり	なし	機械排気で一部空気をHEPA付再循環	再循環含めて4.7回程度	再循環含めて4.7回程度
D		あり	なし	なし	機械排気による全排気	3.2回	なし
E		あり	なし	なし	機械排気による全排気	2.5回	なし
F		あり	なし	なし	機械排気による全排気	不明	なし
G	同一病棟内非陰圧区域	質問せず	質問せず	質問せず	質問せず	質問せず	なし
	同一病棟内拡大陰圧区域	あり	なし	なし	機械排気による全排気	24回ないし6回(実態不明)	なし
	同一病棟内固定陰圧区域	あり	なし	なし	機械排気による全排気	24回ないし6回(実態不明)	なし
H		あり	なし	なし	機械排気による全排気	4.5回~6回	なし
I		なし	なし	なし	機械換気なし。換気扇なし	対象外	なし
J		なし	なし	なし	機械換気なし。換気扇なし	対象外	なし
K	2階病棟	あり	なし	なし	換気扇による全排気。	不明	なし
	3階病棟	あり	なし	なし	換気扇による全排気。	不明	なし
	4階病棟	あり	なし	なし	換気扇による全排気。	不明	なし
	5階病棟	あり	なし	なし	換気扇による全排気。	不明	なし
L		あり	なし	なし	機械排気による全排気	2回	なし
M	〇〇病棟	なし	なし	なし	機械換気なし。換気扇なし	対象外	なし
	△△病棟一部+□□病棟一部	なし	なし	なし	機械換気なし。換気扇なし	対象外	なし
	△△病棟内MDR区域	あり	なし	なし	機械排気による全排気	不明	陽圧化可能1室のみHEPA付再循環空気清浄機設置
N	同一病棟内非陰圧室群	あり	なし	なし	機械換気(詳細不明)。	不明	不明
	同一病棟内陰圧室群	あり	あり	なし	機械換気(詳細不明)+HEPA付再循環空気清浄機	不明	不明
O		あり	なし	なし	機械排気による全排気	不明	なし
P		あり	なし	なし	換気扇による全排気	不明	なし
Q		あり	なし	なし	機械排気による全排気	2回	なし
R		あり	あり	なし	機械排気による全排気+HEPA付再循環空気清浄機(各病室)	再循環含めて6回程度	外気導入を含めて6回程度
S	モデル病床	不明	なし	なし	不明	2.9回	なし
	2種感染症病床①	あり	あり	なし	機械換気で一部空気をHEPA付再循環	2.2回	4.8
T	2種感染症病床	あり	なし	なし	機械排気による全排気	不明	なし

表3.1.感染粒子の除去状況

- (a): 排気装置はon/offでかなり作動音が大いとのこと。疑い患者(確定していない患者)はこの個室にいれ据え置き型換気装置を作動させ陰圧化する、と。確定すれば換気装置は停止させる。
- (b): 陽圧化は殆ど作動していない様子で、HEPA付再循環装置の稼働状態についても質問していないため、別区画としなかった。

病院名	病床区画	換気システム概要	給気(機械)系の独立	排気	給排気装置 停止時対策 (ファン連動ダン パ等)
A	同一病棟内陰圧化不可 能室群	共用トイレ浴室からの排気のみで機 械換気なし。換気扇なし。		共用トイレ浴室からの排気 は他の病床からの排気と共 通	不明
	同一病棟内陰圧化可 能室群	据え置き型のHEPA付排気装置 (on/off)あり		部屋ごと単独独立	不明
B	同一病棟内非陰圧区 域	病室に排気給気両方あり。廊下で給 気。	独立	単独独立	質問せず
	同一病棟内陰圧区域	病室に排気給気両方あり。廊下で給 気。	独立	単独独立	あり
C		廊下と病室共に給気されている。病室 以外にも共同区域トイレで排気	独立	単独独立	なし
D		病室に排気給気両方あり	他病棟と共通	単独独立	なし
E		病室に排気給気両方あり	下階と共通	単独独立	あり
F		病室に排気給気両方あり	独立	単独独立	なし
G	同一病棟内非陰圧区 域	質問せず	給気の有無不明	質問せず	なし
	同一病棟内拡大陰圧 区域	排気のみ。機械給気の有無不明	給気の有無不明	単独独立(陰圧区域全体で1 単位)	なし
	同一病棟内固定陰圧 区域	排気のみ。機械給気の有無不明	給気の有無不明	単独独立(陰圧区域全体で1 単位)	なし
H		排気のみ。給気なし。		単独独立	なし
I		トイレ浴室からの排気あり。これ以外 自然換気。換気扇なし。		質問せず	質問せず
J		ほぼ自然換気。換気扇なし。			
K	2階病棟	各部屋の換気扇のみ		各部屋毎の換気扇排気	
	3階病棟	各部屋の換気扇のみ		各部屋毎の換気扇排気	
	4階病棟	各部屋の換気扇のみ		各部屋毎の換気扇排気	
	5階病棟	各部屋の換気扇のみ		各部屋毎の換気扇排気	
L		廊下、各病室とも給気/排気あり。	独立	単独独立	不明
M	〇〇病棟	トイレ浴室からの排気(on/off)を除き ほぼ自然換気		質問せず	質問せず
	△△病棟一部+□ □病棟一部	トイレ浴室からの排気(on/off)を除き ほぼ自然換気		質問せず	質問せず
	△△病棟内MDR区 域	病室からの排気のみ。給気は非MDR 区域からフィルター(HEPAかどうか質 問せず)を通した空気を廊下側に吹出 している。	非MDR区域からの フィルターを通した送 気	単独独立	なし
N	同一病棟内非陰圧 室群	機械換気だが不明	質問せず	不明	不明
	同一病棟内陰圧室 群	機械換気だが不明	質問せず	不明	不明
O		廊下から給気。廊下と病室から排気。	独立	単独独立	あり
P		病室からの換気扇による排気		単独独立(換気扇)	
Q		病室内で給気、排気ともにあり	フロアー共通	陰圧室は縦にブロックを形 成しこれらのシステムのみで 単独独立排気	あり
R		区域内廊下兼共用スペースでは給気 のみ。各部屋で排気と若干の給気。	各部屋単位で独立	単独独立	なし
S	モデル病床	質問せず	質問せず	単独独立	なし
	2種感染症病床	各室で給気と換気。	各室で独立	単独独立	なし
T	2種感染症病床	各病室は排気のみ、廊下で給気	共通	単独独立	あり

表3.2.換気システムの概要

病院名	病床区画	排気フィルタリング (HEPA)設置	HEPAフィルター保守整備	排気口が病室窓から離れて いる
A	同一病棟内陰圧化可 能室群	あり	交換1回/3年(目詰まり警報等の有 無質問せず)	OK(屋上から排気)
B	同一病棟内陰圧区域	あり	交換1回/2年(目詰まり警報等の有 無質問せず)	OK(屋上から排気)
C		あり	交換1回/1年(毎月点検)	OK(屋上から排気)
D		あり	交換1回/3-4年(目詰まり警報設 置)	OK(屋上から排気)
E		あり	交換1回/3年(差圧メーターで管理)	OK(屋上から排気)
F		なし		No(同じレベルで排気。1つの 病室だけ外気取り入れ口近く に排気している)
G	同一病棟内拡大陰圧 区域	あり	交換1回/4.5年(目詰まり警報設置)	OK
	同一病棟内固定陰圧 区域	あり	交換1回/4.5年(目詰まり警報設置)	OK
H		あり	交換1回/2-3年(差圧計をモニター)	No(同じレベルで排気。隣接 する病室へのショートカットの 可能性有り)
L		あり	交換の経験なし(陽圧警報あり)	OK(屋上で排気)
M	△△病棟内MDR 区域	あり	差圧計なし/5年に1回程度	No(病棟横で排気)
O		あり	交換1回/2-3年(差圧計のモニター で交換時期を決定)	OK屋上排気
Q		あり	交換1回/1年	OK(屋上排気)
R		あり	交換1回/2-3年(現在)	No(同じレベル排気している が給気口とは離してある)
S	2種感染症病床	あり(給気側にもあり)	交換は2-3年に1回(目詰まり警報 等の有無は不明)	No(給気と排気のダクトが隣 接している)
T	2種感染症病床	あり	交換1回/1年	OK(屋上で排気)

表3.3.排気の状態(機械排気のある区画である程度詳細の判明のしている区画のみ)

交換頻度	区画
1年に1回交換	3
2年に1回交換	1
3年に1回交換	2
2-3年に1回交換	4
3-4年に1回交換	1
平均4.5年に1回交換	2
5年に1回交換	1
交換の経験なし	1

表3.4.HEPAフィルターの交換状況

病院名	病床区画	病室でのベット位置と給気口／ 排気口の位置調整	病室外の施設内空気流の設定(清 潔⇒汚染区域)
A	同一病棟内陰圧化 可能室群	患者頭付近のベッドサイドに HEPAユニット設置	なし
B	同一病棟内陰圧区 域	病室窓側と中央で排気。病室入 り口側で給気	あり
C		窓側で給気。病室入り口付近で 排気。	あり
D		多床室は部屋中心部で給気、病 室入り口付近で排気。個室は患 者足部分で給気。入り口付近で 排気	あり
E		窓側と壁側に給気。病室内トイレ と出入り口付近で排気	あり
F		窓側で給気。廊下側入り口近くで 排気、	なし
G	同一病棟内拡大陰 圧区域	患者の足側部分天井で排気。給 気なし。	陰圧区域内の空気流設定なし
	同一病棟内固定陰 圧区域	患者の足側部分天井で排気。給 気なしし給気なし。	
H		患者の体のほぼ中心部天井で排 気。給気なし	一般病床区域⇒陰圧区域⇒結核病 床に設定
L		患者ベッド上部へ向けて水平方 向へ給気。廊下出入り口付近で 排気	前室⇒廊下⇒各病室に設定。区画 内ナーステーションの設定は不明 (現状で陰圧ではない)
M	△△病棟内MDR 区域	質問せず	非MDR区域⇒MDR区域廊下⇒病室
O		病室奥患者足側天井と入り口付 近に排気口あり。病室内給気な し	非陰圧区域⇒陰圧区域(陰圧区域 内廊下⇒各病室)
Q		患者足元の天井部分より給気。 部屋の四方から排気。	(病棟単位運営)
R		患者ベッド真上のHEPAユニット で若干外気を給気。排気は入り 口付近のシャワー室からの排気 のみ。	通常病床廊下⇒陰圧区域全室⇒共 用室兼廊下⇒各病床
S	2種感染症病床	排気の熱交換ユニットは患者の ベッド上やや窓際よりあり特に 空気の流れは考慮されていな い。	廊下⇒病室
T	2種感染症病床	質問せず	廊下⇒病室

表3.5.空気流の設定(機械排気のある区画である程度詳細の判明のしている
区画のみ)

病院名	病床区画	実働病床数	病室の陰圧化	病室外区域(廊下や共用室を含む)の陰圧化	陰圧のチェック機構と記録	病室陽圧化可能+前室設置(HIV合併結核など易感染性患者管理のための個室)
A	同一病棟内陰圧化不可能室群	10	なし	なし		なし
	同一病棟内陰圧化可能室群	2	全室陰圧化可能	病室外陰圧区域の形成なし	機械動作確認のみ	なし
B	同一病棟内非陰圧区域	40	なし	なし		なし
	同一病棟内陰圧区域	20	全室陰圧化	区域全体が陰圧化	中央監視PC(ナースステーションに設置)で各部屋区域の圧をモニターしている/一日一回チェック	なし
C		55	全室陰圧化	区域全体が陰圧化	3ヶ月に1度行う。病室の入り口と病棟の入り口をチェック(ビルメンテ会社が他の点検と共に行っている)	なし
D		10	全室陰圧化	区域全体が陰圧化	なし	なし(HIV合併患者も陰圧室に入院する)
E		10	全室陰圧化	区域全体が陰圧化	設備管理室で毎時間の自動記録	なし
F		実質 29	なし	なし		なし
G	同一病棟内非陰圧区域	30	なし	なし		なし
	同一病棟内拡大陰圧区域	12	全室陰圧化可能	区域全体が陰圧化可能	なし	なし
	同一病棟内固定陰圧区域	8	全室陰圧化	区域全体が陰圧化	なし	なし
H		3	全室陰圧化	区域全体が陰圧化	毎日看護師がスモークテスト施行し記録/圧計も記録する	なし
I		4	なし	なし		なし
J		46	なし	なし		なし
K	2階病棟	59	(換気扇による換気)	(換気扇による換気)		なし
	3階病棟	58	(換気扇による換気)	(換気扇による換気)		
	4階病棟	59	(換気扇による換気)	(換気扇による換気)		
	5階病棟	59	(換気扇による換気)	(換気扇による換気)		
L		10	全室陰圧化	区域全体が陰圧化	なし	なし
M	〇〇病棟	51	なし	なし		なし
	△△病棟一部+□□病棟一部	44	なし	なし		なし
	△△病棟内MDR区域	16	全室陰圧化	区域全体が陰圧化	なし	1室のみ陽圧化可能/前室はない
N	同一病棟内非陰圧室群	実質 20	なし	なし		なし
	同一病棟内陰圧室群	5	全室陰圧化	病室外陰圧区域の形成なし	なし	なし
O		8	全室陰圧化	区域全体が陰圧化	陰圧のチェックではないが、看護師が排気ファン作動ランプを勤務交代時に確認する(記録はしていない)。	なし
P		2	(換気扇による換気)	(換気扇による換気)		なし
Q		15	全室陰圧化	病室外陰圧区域の形成なし(病棟単位運営)	病室入口のデジタル式差圧計を1日に1回看護師が確認/記録はしない	なし
R		3	全室陰圧化	区域全体が陰圧化	スモークテストを1日1回施行(病棟の看護師)/記録あり	なし
S	モデル病床	0	なし	なし		なし
	2種感染症病床	6	全室陰圧化	区域全体が陰圧化	なし	なし
T	2種感染症病床	10	全室陰圧化	区域全体が陰圧化	時々チェックする程度(決まりなし)。	なし

表3.6.陰圧化の状況

病院名	区画と陰圧化の有無	実働病床数	区域共同の有無	区域内トイレの有無	区域内シャワーの有無	個室			2居室			3居室			4居室(b)			5居室(a)			6居室(a)			7居室(a)			8居室(a)			9居室(a)			
						部屋数	1人あたり総面積	★	☆	部屋数	1人あたり総面積	★	☆	部屋数	1人あたり総面積	★	☆	部屋数	1人あたり総面積	★	☆	部屋数	1人あたり総面積	★	☆	部屋数	1人あたり総面積	★	☆	部屋数	1人あたり総面積	★	☆
A	陰圧北不可病室	10	あり	あり	あり	1	8.20	0	0	1	6.47	0	0	1	5.95	1	4.74	0															
	陰圧化可能病室	2	(e)	(e)		2	8.20	0	0																								
B	非陰圧区域	40	あり	あり		4	12.4	0	0	2	15.9	0	0	0		8	7.97	0															
	陰圧区域	20	あり	あり						4	15.9	0	0			3	7.97	0															
C	全室陰圧	55	あり	あり		1	12.4	0	0	7	7.19	0	0	0		10	6.43	0															
D	全室陰圧	10	あり	あり		2	12.8	0	0				0		2	6.56	0																
E	全室陰圧	10	(f)	あり		2	16.3	2	0						2	8.23	2																
F	なし	29	あり	あり		5	12.8	0	0						6	6.55	0																
G	非陰圧区域	30	あり	あり		3	7.82	3	2	4	7.03	0	0		2	7.03	0	1	5.46		1	4.64											
	拡大陰圧区域	12	あり	あり						4	7.03	0	0		1	7.51	0																
	固定陰圧区域	8	あり	あり		2	14.6	0	0				2	6.64																			
H	全室陰圧	3	あり	あり		3	9.22	0	0																								
I	非陰圧	4	あり	あり						2	16.2	0	0																				
J	非陰圧	46	あり	あり						3	4.87	1	1		1	5.23	0		2	4.7			3	5.27									
K	2階(全室非陰圧)	59	あり	なし						1	9.75	0	0					8										1	5.08				
	3階(全室非陰圧)	58	あり	なし(d)													3						5										
	4階(全室非陰圧)	59	あり	なし(d)													2	5.05		1		5	5.74										
	5階(全室非陰圧)	59	あり	なし(d)													2		1		6.56	5											
L	全室陰圧	10	あり	あり		6	13.2	6	0	2	8.82	0	0																				
M	〇〇病棟	51	あり	あり		6	12.98	★	不明	3	6.2	0	0		1	7.97	0	1	6.37		5	5.31											
	△△病棟一部十口	44	あり	あり		4	13.16	★	不明						3	6.53	0	2	6.37		3	5.31											
	△△病棟内MDR区域	16	あり	あり		2	12.39	★	不明	3	7.82	0	0		2	7.97	0																
N	非陰圧室	20	あり	あり																													
	陰圧室	5	なし	なし		3	不明	0	0	1	9.9	0	0																				
O	全室陰圧	8	(f)	あり		8	14.4	★	8	1																							
P	なし	2	(f)	あり		2	10.5	★	2	0																							
Q	全室陰圧化	15	(f)	(f)		15	12.5	★	15	15																							
R	全室陰圧化	3	(f)	(f)		3	13.3	3	3																								
S	2種病床/全室陰圧	6	あり	あり		6	14	0	0																								
T	2種病床/全室陰圧	10	(f)	(f)		10	13.68	★	10	10																							

表3.7各区画の病床配置と陰圧化・トイレ・浴室シャワー等設置状況

★:トイレ/浴室シャワー等を含む面積の場合★を付す。

☆:トイレ/浴室シャワー等を含む面積かどうか不明の場合☆を付す。

(a):全部屋がトイレ/浴室シャワー等なし

(b):全部屋が浴室シャワー等なし

(d):風呂は1階の結核患者専用浴室を使用

(e):病室外陰圧区域の形成なし

(f):各部屋に設置しているので不要

	個室		2床室		3床室		4床室		5床室 (a)	6床 室(a)	7床 室(a)	8床 室(a)	9床 室(a)	計		総計
	陰圧	非陰 圧	陰圧	非陰 圧	陰圧	非陰 圧	陰圧	非陰 圧	非陰 圧	非陰 圧	非陰 圧	非陰 圧	非陰 圧	陰圧	非陰 圧	
病室数	65	25	21	16	2	1	20	27	4	26	2	18	1	108	120	228
病床数	65	25	42	32	6	3	80	108	20	156	14	144	9	193	511	704
トイレ・浴室／シャワー 等の有無判明病室	63	15	21	16	2	1	20	27	4	26	2	18	1	106	110	216
トイレあり病室(不明除 く)	44	5		1			2							46	6	52
浴室／シャワーあり病 室(不明除く)	29	2		1										29	3	32

表3.8.陰圧／非陰圧別に見た個室・多床室分布とトイレシャワーの設置状況

(a): 陰圧室なし

病院名	病床区画	陰圧化の有無	病室窓の開放不可化ないし開放禁止	結核病床区域 出入口のないし 陰圧区域出入口へのの 前室設置	病室扉の自閉 式化	病室扉は常に必要以外 閉鎖状態	病室扉は引き戸
A	同一病棟内陰圧化不可 可能室群	なし	開放可能だが常時閉鎖を指導	なし	あり	開放	全て引き戸
	同一病棟内陰圧化可 能室群	全室陰圧化可 能	(陰圧時)開放可能だが常時閉鎖を 指導	なし	あり	陰圧化時閉鎖	全て開き戸
B	同一病棟内非陰圧区 域	なし	質問せず	図面からははっ きりせず	質問せず	質問せず	全て引き戸
	同一病棟内陰圧区 域	全室陰圧化	開放可能だが常時閉鎖を指導	あり	あり	閉鎖が原則	全て引き戸
C		全室陰圧化	開放可能だが常時閉鎖を指導	あり	あり	閉鎖が原則	全て引き戸
D		全室陰圧化	開放可能だが常時閉鎖を指導	あり	あり	閉鎖が原則だが開放し ていた病室あり	全て引き戸
E		全室陰圧化	開放可能だが常時閉鎖を指導	あり	あり	閉鎖が原則	全て引き戸
F		なし	質問せず	なし	あり	閉鎖が原則	全て引き戸
G	同一病棟内非陰圧区 域	なし	質問せず	なし	あり	質問せず	全て引き戸
	同一病棟内拡大陰圧 区域	全室陰圧化可 能	(陰圧時)開放可能だが常時閉鎖を 指導	なし	あり	質問せず	全て引き戸
	同一病棟内固定陰圧 区域	全室陰圧化	開放可能だが常時閉鎖を指導	なし	あり	質問せず	全て引き戸
H		全室陰圧化	開放可能だが常時閉鎖を指導	なし	自閉式	閉鎖が原則	全て引き戸
I		なし	質問せず	なし	自閉式	質問せず	全て引き戸
J		なし	窓は閉鎖が原則だが患者が開けて しまうことも多い	なし	なし	閉鎖が原則	全て開き戸
K	2階病棟						
	3階病棟	(換気扇による 換気)	窓は閉鎖が原則だが患者が開けて しまうことも多い	なし	あり	質問せず。実際には開 いている部屋も多く見ら れた。	全て開き戸
	4階病棟						
	5階病棟						
L		全室陰圧化	開放可能だが開放しないよう指導	あり	あり	閉鎖が原則	全て引き戸
M	〇〇病棟	なし	閉鎖が原則	なし	あり	あけてよい	全て引き戸
	△△病棟一部+□ □病棟一部	なし	閉鎖が原則	なし	あり	あけてよい	全て引き戸
	△△病棟内MDR区 域	全室陰圧化	開放不可能	なし	あり	あけてよい	全て引き戸
N	同一病棟内非陰圧 室群	なし	開放可能	なし	自閉式	質問せず	全て開き戸
	同一病棟内陰圧室 群	全室陰圧化	開放不可能	なし	自閉式	質問せず	全て開き戸
O		全室陰圧化	閉鎖が原則	あり	自閉式	常に閉鎖	全て引き戸
P		(換気扇による 換気)	開放不可能	なし	不明	収容実績なく不明	全て引き戸
Q		全室陰圧化	開放可能だが常時閉鎖を指導	(病棟単位運 営)	自閉式	結核収容時は常閉鎖	全て引き戸
R		全室陰圧化	開放可能だが常時閉鎖を指導	あり	自閉式	常時閉鎖	全て引き戸
S	モデル病床	なし	(稼動していない)	なし	あり	(稼動していない)	全て開き戸
	2種感染症病床	全室陰圧化	開放可能だが常時閉鎖を指導	なし	あり	常時閉鎖	全て引き戸
T	2種感染症病床	全室陰圧化	開放不可能	なし	あり	常時閉鎖	全て引き戸

表3.9..ドアと窓の状況と管理

病院名	精神科 or 一般	病棟区画	多床室への収容条件	病室外への自由移動許可の条件	病棟ないし病棟区域外への自由移動許可の条件	病院外外出/外泊の基準
A	一般	同一病棟内陰圧化不可能室群 同一病棟内陰圧化可能室群	結核と確定していること。治療初期は個室としたいがベッド運営上困難。	制限なし	入院中不可	原則不許可
B	一般	同一病棟内非陰圧区域 同一病棟内陰圧区域	治療初期は陰圧区域個室(2床室を使用)を原則とするが、ベッド運営上困難なことが多い。	制限なし 治療初期(1週間程度)経過後	病棟外院内売店に行くことが1日1回許可。これ以外の結核病棟外への移動不可。 喀痰塗抹連続2回陰性まで陰圧区域から出るとは不可(2回陰性で陰圧区域外転ベッド)	原則不許可
C	一般		最初2週間程度は個室管理が原則	質問せず	喀痰塗抹または培養が3回連続陰性	喀痰塗抹または培養が3回連続陰性
D	一般		治療初期は個室が理想だが運営上困難なことが多い。薬剤耐性(疑い)は積極的に個室に入れる。	質問せず	入院中不可	原則不許可
E	一般		治療初期、重症患者、MDR用患者は個室が理想だが運営上困難なことが多い。	質問せず	主治医判断。通常治療開始2週間程で区域外移動を許可(1日1.2回程度)必ず看護師がつきそう。	原則不許可
F	一般		治療初期、薬剤耐性例は個室を原則	質問せず	入院中不可	原則不許可
G	一般	同一病棟内非陰圧区域 同一病棟内拡大陰圧区域 同一病棟内固定陰圧区域	治療初期は個室が原則	質問せず	病棟外移動の条件は喀痰塗抹陰性。陰圧区域外に出る条件については質問していない	喀痰塗抹陰性
H	一般		多床室なし	短期の患者が殆どで基準なし		
I	一般		入院患者少なくほぼ常に個室管理	部屋から出ないように指導するが、実際にはあまり患者がいないのでよくわからない。		主治医判断
J	一般		培養陰性化が原則だが、ベッド運営上困難なことが多い。	質問せず	培養陰性化が条件だが原則だが実際には出入り自由になっている	培養陰性化
K	一般	2階病棟 3階病棟 4階病棟 5階病棟	個室はないが排菌部屋とそうでない部屋がある。	マスクをすればはじめから院内自由移動許可。ただし非結核病棟への移動は禁止。病棟間は鉄の扉有り常時閉鎖しているが施錠はない。		排菌(塗抹)陰性(塗抹陽性でも培養陰性ならOK)
L	一般		個室のみ使用	制限なし	2週間以上治療し主治医が許可すれば。	原則不許可。抗結核薬内服2週間以降AM7-8時およびPM5-6時に限り周辺の散歩のみ可
M	一般 一般 一般	〇〇病棟 △△病棟一部+□□病棟一部 △△病棟内MDR区域	基本的に個室は重症患者に使用し、状態がよければ最初から多床室可能。 質問せず	マスクをすればそれぞれの区域内は出入り自由	非MDRでは入院1ヶ月後開業が順調に服薬できていること。 MDRは最初区域から出ないように指導。区域外自由移動の条件は主治医判断(塗抹陰性ならOKの可能性高い)。ただしMDRの場合あまり区域外へ行きたいという希望はあまり出ない。	喀痰塗抹培養検査結果が2回連続して陰性の場合、周囲散歩の場合マスク着用が条件で、散歩許可証を発行しており、散歩区域と散歩時間を定めている。
N	精神科病院	同一病棟内非陰圧室群 同一病棟内陰圧室群	塗抹連続2回陰性	陰圧室から自由に入出力可能となる条件は塗抹連続2回陰性	閉鎖病棟で不可能	原則不可
O	精神科病院		個室のみ	質問せず	1ヶ月3回検査し2ヶ月連続6回塗抹陰性。	主治医判断
P	精神科が主		多床室なし	不可能(施錠)	閉鎖病棟で不可能	不可
Q	一般		多床室なし	病棟単位運営。喀痰(袋が採取できなければ胃液)塗抹検査が3回連続して陰性であることが基本		主治医判断
R	一般		多床室なし	感受性が出るまで不許可	結核治療2週間以上経過し3日連続塗抹検査で陰性を確認。しかしこの際には退院することが多い。	主治医判断
S	一般	モデル病床	多床室なし	入院日より2週間は原則として不許可。共用室等がな実質病床区域=病室。		質問せず
T	一般	2種感染症病床	多床室なし	主治医判断だが部屋自体から出ないよう指導		主治医判断

表4.1.各区画での患者管理状況

病院名	精神科単科or 一般病院	病床区画	結核患者の病院内移動時のエレベーターの専用化ないしは対応(移動時間帯の調整や患者マスクを除く)	病棟/病床区画出入り口の施錠やsecurityの有無
A	一般	同一病棟内陰圧化不可能室群 同一病棟内陰圧化可能室群	なし。他患者の同乗も可能	休日夜間は病棟出入りにブザー設置
B	一般	同一病棟内非陰圧区域 同一病棟内陰圧区域	独立戸建なので不要	なし 陰圧区域前室がナースステーションに隣接しておりチェック可能
C	一般		結核患者の使用するエレベーターはほぼ決まっているが専用化等はしていない	なし
D	一般		特にしていない	なし
E	一般		職員用のエレベーターを使用するが専用ではない。使用中は他患者の同乗謝絶。	なし
F	一般		専用エレベーターはないが他の病棟でのメインエレベーターは結核病棟では閉鎖している。結核患者使用時はエレベーターの他患者同乗は謝絶。	なし(チェック困難)
G	一般	同一病棟内非陰圧区域 同一病棟内拡大陰圧区域 同一病棟内固定陰圧区域	独立戸建なので不要	なし 陰圧区域出入り口は施錠可能。認知症患者等への対策として使用することがある。
H	一般		結核患者使用時は他患者の同乗を謝絶。	なし
I	一般		なし	なし
J	一般		なし	なし。設置しても患者の不満が大きくなり管理しきれない可能性が高い。
K	一般	2階病棟 3階病棟 4階病棟 5階病棟	ほぼ別棟で、エレベーターは結核病棟と他の病棟では別。	なし(制限していない)
L	一般		なし。他患者の同乗も可能	隣の緩和病棟との連結部分は施錠されているが、他にはない。
M	一般	〇〇病棟	なし。他患者の同乗も可能	なし
	一般	△△病棟一部+□□病棟一	なし。他患者の同乗も可能	なし
	一般	△△病棟内MDR区域	なし。他患者の同乗も可能	なし
N	精神科病院	同一病棟内非陰圧室群 同一病棟内陰圧室群	質問せず	病棟出入り口施錠(閉鎖病棟)
O	精神科病院		病床1階で不要	病床区画の出入り口は施錠可能。閉鎖病棟自体の入り口は常時施錠。
P	精神科が主		病床1階で不要	閉鎖病棟で出入り口等は施錠
Q	一般		結核患者使用時はエレベーターは専用化する(build-inの専用化システムあり)。	結核対策とは無関係にどの病棟に入るにも専用のカード(窃盗などの対策)が必要(無断で出ると自由に帰ることができない)。患者はカードは持たない。
R	一般		質問せず	なし(区域内のエレベーター出入り口は施錠は通常施錠)
S	一般	モデル病床	他患者の同乗は謝絶	質問せず
T	一般	2種感染症病床	他患者の同乗は謝絶	なし

表4.2.患者移動時のエレベーター管理と病棟/病床区画出入り口のセキュリティーの状況

病院名	精神科単科or 一般病院	病床区画	病室／病棟ないし病床区域外 への無許可移動の有無	←有りの場合対策	病院外施設への無 許可外出の有無	←有りの場合対策
A	一般	同一病棟内陰圧化不可能室群 同一病棟内陰圧化可能室群	あまりない	休日夜間は病棟出入り口にプ ザー設置稼動	ほとんどない	休日夜間は病棟出 入り口にプザー設置
B	一般	同一病棟内非陰圧区域 同一病棟内陰圧区域	あまりない。稀に痴呆患者な ど。	なし 前室ドアを手動に切り替えて開 き難くする。	ほとんどない	
C	一般		年に2-3例	嚴重注意	年に2-3例	嚴重注意
D	一般		あり	嚴重注意	年に数回	嚴重注意
E	一般		ほとんどない。病棟を出ようとす ればすぐわかる。認知症等の問題 はあまり経験しない。			
F	一般		時に認知症等で経験あるが稀	認知症の場合離床センサーで 対応	ほとんどない	
G	一般	同一病棟内非陰圧区域 同一病棟内拡大陰圧区域 同一病棟内固定陰圧区域	認知症患者などで時にあるが 多くはない	なし 陰圧区域出入り口施錠可能 で、認知症患者等への対策と して使用することあり	なし	
H	一般		認知症などで稀にあり	認知症ではフットセンサーなど 使用するがかなり大変で、拘束 を余技なくされる場合もある。	ほとんどない	
I	一般		あまり患者がいないのでわからない			
J	一般		実際には自由に出入りしている	対策困難。ストレスがたまりや すくあまりうるさく言うと暴力や 逃亡等の問題になりかねない。	あり。時に近隣から の苦情あり。	対策困難
K	一般	2階病棟 3階病棟 4階病棟 5階病棟	実際には自由に出入りしている	非結核病棟への通路には鉄の 扉有り常時閉鎖しているが施錠 はない。	時にあるが、それ ほど多くはない。学 校にかこまれている が特に問題は起きて いない。	特にない
L	一般		なし		なし	
M	一般	〇〇病棟 △△病棟一部+□□病棟 一部 △△病棟内MDR区域	あり。独居、生活保護、反社会 的組織人など療養生活上問題 のある患者による、無許可移 動がしばしば発生。	痴呆の場合には離床センサー などで対応。他は説明等	あり	オリエンテーションの 徹底など。
N	精神科病院	同一病棟内非陰圧室群 同一病棟内陰圧室群	なし(閉鎖病棟で、病棟内は移 動自由)	陰圧室から無断で出てきてしま う場合には精神科医の正式な 判断と公式書類のもと外から施 錠する。	なし(閉鎖病棟)	
O	精神科病院		なし	陰圧区域から外へ出てきてしま う場合には区域入り口前室の2 つのドアに施錠可能。閉鎖病棟 の外には出ることはできない。	なし	
P	精神科が主		収容実績なし			
Q	一般		認知症以外はなし	認知症の場合などは離床セン サーや病室ドアの開閉セン サーなどで早期に察知。	なし	
R	一般		なし	(認知症の患者では対応困難 でモデル病床では治療不可能 としている)	なし	
S	一般	モデル病床	重症が多く無許可移動はほとんどない。			
T	一般	2種感染症病床	なし。元気な人はほとんどいない。			

表4.3.病室／病棟ないし病床区域外／病院外施設への無許可移動と対策の実情

病院名	精神or一般	モデルor通常	病棟区画	病棟としてユニット	看護単位としてユニット	実働結核病棟数	病棟区画とナースステーションの距離	重症者の受け入れと対応	結核病棟外空気感染対策個室の有無(表5.2参照)	
A	一般	通常	同一病棟内陰圧化不可能室群	ユニット	ユニット	10	陰圧個室はステーションから遠い	対応可能(非陰圧重症個室使用)	なし	
			同一病棟内陰圧化可能室群			2				
B	一般	通常	同一病棟内非陰圧区域	独立病棟	非ユニット	40	(病棟内)	対応可能。	なし	
			同一病棟内陰圧区域			20				
C	一般	通常		独立病棟	非ユニット	55	(病棟内)	対応可能。	なし	
D	一般	通常		独立病棟	ユニット(隣病棟と共通)	10	ステーションからかなり離れている	安全性が確保できないので重症例は治療不可能で原則転院。例外的に院内発生重症結核の場合には他病棟から看護師増員して対応。ICUでは結核患者用個室なく重症例対応は不可。看護師や医師の人員不足、引いては診療報酬が原因との見解。	なし	
E	一般	通常		ユニット	ユニット(隣病棟と共通)	10	ステーションから若干離れている	重症への対応はcase by case。受け入れの場合ステーション近くの同一病棟内の結核病棟外の陰圧個室で管理する。	あり	
F	一般	通常		独立病棟	ユニット	29	ステーションからかなり離れている(隣の病棟)	隣の呼吸器病棟と1看護単位で結核病棟重症患者有りの場合には看護師を呼吸器病棟から結核病棟へ多少シフトさせるが、全体としての増員はない。	なし	
G	一般	通常	同一病棟内非陰圧区域	独立病棟	非ユニット	30	陰圧区域はステーションからかなり離れている	重症で看護師のClose observationが必要な場合には感染性の時期でもステーション近くの非陰圧個室に収容する可能性がある。	なし	
			同一病棟内拡大陰圧区域			12				
			同一病棟内固定陰圧区域			8				
H	一般	通常		ユニット	ユニット	3	ステーションからかなり離れている	頻回訪室で対応可能	なし	
I	一般	通常		ユニット	ユニット	4	ステーションからかなり離れている	重症者対応では看護上の問題も多く、一応結核病棟で対応するが可能なら他院に搬送する。看護体制については特別な対応はしていない。	なし	
J	一般	通常		独立病棟	非ユニット	46	(病棟内)	質問せず	質問せず	
K	一般	通常	2階病棟	独立病棟	非ユニット	59	(病棟内)	重症例は原則他の病院に送るが、転院先がなく自院で診ざるを得ないことがある。	なし	
			3階病棟	独立病棟	非ユニット	58				
			4階病棟	独立病棟	非ユニット	59				
			5階病棟	独立病棟	非ユニット	59				
L	一般	通常		ユニット	非ユニット	10	(区画内)	看護体制上結核病棟での重症患者管理は困難で原則転院だが、やむを得ない場合は各病棟ICUの陰圧室を使用。	あり	
M	一般	通常	〇〇病棟	独立病棟	非ユニット	51	(病棟内)	東6病棟はステーションからかなり離れている	対応可能	なし
			△△病棟一部+□□病棟一部	独立病棟	非ユニット	44				
			△△病棟内MDR区域			16	ステーションから若干離れている			
N	精神科病院	精神科閉鎖	同一病棟内非陰圧室群	独立病棟	非ユニット	20	ステーション近くに陰圧室あり	対応可能。	なし	
			同一病棟内陰圧室群			5				
O	精神科病院	モデル		ユニット	ユニット	8	病棟区画とステーションが隣接	非精神的重症例は基本的に対応が困難で転院が原則。陰圧区域に落ち着かない患者がいると陰圧区域内で勤務するような状態になる場合もある。	なし	
P	精神科が主	モデル		独立病棟	非ユニット	2	(病棟内)	収容実績なく不明	なし	
Q	一般	モデル		病室単位運営	病室単位運営	15	近い	対応可能	あり	
R	一般	モデル		ユニット	ユニット	3	ステーションからかなり離れている	モデル病棟では重症者管理不可能。ADLが自律した痴呆のない人しかモデル病棟には入れない。非結核病棟陰圧室で対応可能かもしれない。	あり	
S	一般		2種病棟	ユニット	ユニット	6	ステーションからかなり離れている	対応可能。しかしビデオモニターなどが必要な場合があり、アラーム音が聞こえにくい。頻回の訪問で対応。人工呼吸器対応患者の場合には看護師の増員が必要。	なし	
T	一般		2種病棟	ユニット	ユニット	10	ステーションからかなり離れている	対応可能。非陰圧の非結核病棟ICUで対応する場合がある。しかし重症者管理は重荷で交代で区画内に看護師配置する場合がある。看護師増員はないが一時的に一般患者さんを減らして対応する場合がある。またモニターが飛ばないことがある	なし	

表5.1.重症者対応の状況

病院名	精神or一般	モデルor通常	合併症受け入れへのコメント	結核病床外空気感染対策個室の有無	腹部等の手術	呼吸不全	白血病	透析	妊娠合併
A	一般	通常	受け入れは合併症担当科の判断。受け入れた場合は結核と確定していればどのような合併症でも結核病棟で治療(a)	なし	陰圧にできる手術室あり	結核病棟内でOK	結核病棟内でOK	透析時のみ透析センター個室で行う(陰圧室ではない)	原則結核病棟内で管理(出産の時の対応不明)
B	一般	通常	認知症は対応可能。近くの全科設置総合病院が結核病棟を閉鎖したばかりで、まだ対応困難合併症の経験はないが、実際にあった場合の対応方針は不明。	なし	不明	不明	不明	不明	不明
C	一般	通常	認知症は対応可能。合併症は転院が原則	なし	転院が原則	転院が原則	転院が原則	転院が原則	転院が原則
D	一般	通常		なし	転院が原則(2週間以上治療しても手術室使用許可を得るのが困難)	転院が原則	転院が原則	転院が原則	転院が原則
E	一般	通常		同一病棟内に陰圧個室2室設置	感染者用の手術室あるが使用や問い合わせは殆どない	対応可能	対応可能	透析は透析室を使用(透析室は陰圧室なし)。病床でも一応可能	産科の先生次第で可能
F	一般	通常		なし	空気清浄機や前室のあり手術室がある。他の結核病棟からの転院はできる断っている	質問せず	受け入れ可能	区画内で透析対応可能	受け入れ可能
G	一般	通常	合併症の種類により対応不可能例あり	なし	基本的に転院だがやむを得ない場合には整形外科の無菌Ope室を使用	質問せず	質問せず	質問せず	質問せず
H	一般	通常		なし	経験がないが術後一日でICUでなんとか対応可能かもしれない	対応可能	対応可能	不可	質問せず
I	一般	通常		なし	原則転院	質問せず	質問せず	質問せず	質問せず
J	一般	通常		質問せず	質問せず	質問せず	質問せず	質問せず	質問せず
K	一般	通常	合併症例は原則他の病院に送るが、転院先がなく自院で診ざるを得ないことがある。	なし	質問せず	質問せず	質問せず	質問せず	質問せず
L	一般	通常	院内発生の合併症のある結核患者は院内で診るが他結核病院からの転院は断っている。	多くの病棟とICUに陰圧室がある。	陰圧化可能Ope室あるが経験なし	ICUに転院	血液科ICUで診ることになるだろうとのこと	透析はICUで行う/透析室に陰圧室なし	経験がないが、産婦人科病棟(陰圧室なし)でもかなり難しいとの予想
M	一般	通常		なし	可能(陰圧化可能ope室あるが他からの問い合わせはない)	可能	可能	不可	転院
N	精神科病院	精神科閉鎖		なし	不可能	質問せず	質問せず	質問せず	質問せず
O	精神科病院	モデル	非精神科的合併症は基本的に対応が困難で転院が原則。	なし	不可	不可	不可	不可	不可
P	精神科が主	モデル		なし	不可	不可	不可	不可	不可
Q	一般	モデル	全科対応可だが他の結核病棟からの要高度医療合併症結核患者の転院はこれまで例がない。	あり(b)	陰圧手術室はないがその日の最後に行うことで対応	可	可	可	可
R	一般	モデル		あり(d)	一応対応可能だが、一時的に換気を停止させるなどの対応が必要で非常に難しい。	モデル病床では無理だが他の病棟の陰圧室ならOKかもしれない			
S	一般	2種		(2種感染症病床が結核病床、これ以外はなし)	可(特別な手術室はないが対応せざるを得ない)。	可	不明(その時にならないとわからない)。	質問せず	不可
T	一般	2種	合併症結核患者の転院に関する、他の結核病棟からの問い合わせはない。合併症をもつ患者がいてもそれらの疾患に経験のある看護師がおらず対応は困難。	なし	経験なく不明。	可	質問せず	質問せず	質問せず

表5.2 合併症対応の状況

- (a): 結核病棟勤務はベテラン看護師が多く、普段みていない疾患の合併結核患者でも医師の協力で、不安はあるものなんとかケア可能。
- (b): ICU,HCUを含む全病棟に陰圧個室が1~4病室ずつ割り当てられており、うち6床は非モデル病床。
- (d): 主要病棟/HCUには陰圧室あり(計10床)あり。特に各病棟HCUには各部屋天井にHEPA付再循環型空気清浄機が設置され中心部のHCUナースステーション部分にも大型のHEPA付再循環型空気清浄機が4台設置されている。

	個室		2床室		3床室		4床室		5床室 (a)	6床 室(a)	7床 室(a)	8床 室(a)	9床 室(a)	計		総計
	陰圧	非陰 圧	陰圧	非陰 圧	陰圧	非陰 圧	陰圧	非陰 圧	非陰 圧	非陰 圧	非陰 圧	非陰 圧	非陰 圧	陰圧	非陰 圧	
病室数	65	25	21	16	2	1	20	27	4	26	2	18	1	108	120	228
病床数	65	25	42	32	6	3	80	108	20	156	14	144	9	193	511	704
面積が判明している病室の 病床数	27	13	44	26	6	3	80	108	20	156	14	144	9	157	493	650
平均面積㎡	12.9	11.2	9.2	9.78	6.64	5.95	7.06	7.18	6.14	5.09	6.56	5.66	5.08			
平均面積≥15㎡ の病室病床数	2		8	8										10	8	18
患者一人 あたりの 床面積㎡ (トイレシャ ワー除く)	20	9												20	9	29
15>平均面積≥ 10㎡の病室病床 数																
10>平均面積≥ 7.5㎡の病室病床 数	5	4	12	2			32	56						49	62	111
7.5㎡>平均面積 の病室病床数			22	16	6	3	48	52	20	156	14	144	9	76	414	490

表6.1.陰圧／非陰圧別に見た個室・多床室分布と面積

(a): 陰圧室なし

病院名	精神or一般	病床区画	病床として ユニット	実働 結核 病床 数	病室外共有空 間の有無(食堂 等との兼用含 む)	共有空 間の面 積m ²	公衆電 話	テレビ	ネット 接続 PC設 置	自販機 (飲料)	病室区域での携 帯電話使用可否
A	一般	同一病棟内陰圧化 不可能室群	ユニット	10	あり	51.1		あり	なし	なし	可(他病棟より規 制緩い)
		同一病棟内陰圧化 可能室群		2							
B	一般	同一病棟内非陰圧 区域	独立病棟	40	あり	52.29	あり	あり	あり	なし	可(全病院可)
		同一病棟内陰圧区 域		20	あり	31.9	あり	あり	あり	あり	
C	一般		独立病棟	55	あり	45.5	あり	あり	なし	あり	可
D	一般		独立病棟	10	あり	30	あり	あり	なし	なし	可(全病院可)
E	一般		ユニット	10	あり	19	あり	あり	なし	あり	可(全病院可)
F	一般		独立病棟	29	あり(2室)	26.2+ 12.8	あり	あり	なし	なし	可
G	一般	同一病棟内非陰圧 区域	独立病棟	30	あり	30.1	なし	あり	なし	なし	可
		同一病棟内拡大陰 圧区域		12	あり		なし	あり	なし	なし	可
		同一病棟内固定陰 圧区域		8	あり	20	なし	あり	なし	なし	可
H	一般		ユニット	3	なし		なし	なし	なし	可(全病院)	
I	一般		ユニット	4	なし		なし	なし	なし	可(全病院)	
J	一般		独立病棟	46	あり	不明	あり	あり	なし	なし	個室でのみ可
K	一般	2階病棟	独立病棟	59	あり	38.34	あり	なし	なし	なし	
	一般	3階病棟	独立病棟	58	あり	45.9	なし	なし	なし	なし	不可(実際には 使用している)
	一般	4階病棟	独立病棟	59	あり	58.32	あり	なし	なし	なし	
	一般	5階病棟	独立病棟	59	あり	58.32	なし	なし	なし	なし	
L	一般		ユニット	10	あり	24.5	あり	あり	なし	なし	可
M	一般	〇〇病棟	独立病棟	51	あり	37.17	あり	あり	なし	なし	
	一般	△△病棟一部+ □□病棟一部	独立病棟	44	あり(2室)	37.17+ 31.86	あり	あり	なし	なし	可(全病院)
	一般	△△病棟内MDR 区域		16	あり	15.93	なし	あり	なし	なし	
N	精神科病院	同一病棟内非陰 圧室群	独立病棟	20	あり	92.7		あり	なし	なし	不可
		同一病棟内陰圧 室群		5							
O	精神科病院		ユニット	8	あり	27	あり	あり	なし	なし	(医師の許可)
P	精神科が主		独立病棟	2	なし		なし	なし	なし	なし	收容実績なく不 明
Q	一般		病室単位運 営	15	(個室単位運 営)						可
R	一般		ユニット	3	あり	35.32	なし	なし	なし	なし	可(全病院)
S	一般	2種病床	ユニット	6	なし		なし	なし	なし	なし	可
T	一般	2種病床	ユニット	10	なし		なし	なし	なし	なし	可(感染症病床 のみ許可)

表6.2.共有空間の状況とテレビや電話等の設置状況

病院名	精神or一般	病床区分	病床としてユニット	病床区域内での物品購入の可否	可の場合の購入方法	外気へのアクセス(庭や屋上など)	その他の長期入院に適した特別なアメニティ	長期入院に適するかどうか(調査者の主観)			
A	一般	同一病棟内陸圧化不可能室群	ユニット	可能	職員に依頼	不可	ルームランナー(患者寄贈)	共用室は広く明るいが廊下も病室も狭く若干圧迫感がある。長期入院の点では若干不利。			
B	一般	同一病棟内陸圧化可能室群	独立病棟	可能	自販機ないしカタログ(院内ローン全商品)販売。	不可	なし	廊下は広く部屋も比較的広々としている			
C	一般	同一病棟内非陸圧区域	独立病棟	可能	自販機、ないし売店で職員が代理購入。	屋上があるが不可(近隣よりクレームがあったことがある)	なし	廊下は広く開放感あり			
D	一般	同一病棟内陸圧区域	独立病棟	一部可能	病床区域入り口付近へ訪問販売があるが注文は不可。看護師が買いに出る場合あり。	不可	なし	廊下は広く患者も少ないせいか閉塞感あまり感じないが雰囲気寂しい印象をうける			
E	一般	同一病棟内陸圧区域	ユニット	可能	売店で代理購入	不可(屋上なし)	感染性次第で院内図書室利用可能	新しい病院で快適そうだが共同室が若干狭い印象			
F	一般	同一病棟内陸圧区域	独立病棟	可能	カタログショッピング	不可	なし	窓は広く個室のある側は眺めもよく開放感あり			
G	一般	同一病棟内非陸圧区域	独立病棟	不可	同一病棟内拡大陸圧区域	病棟の外に庭(荒れている)あり一応可能だが陸圧区域からは外に直接出られない。	ゲームやビデオ機器持ち込みを許可しており若年者はこれらに熱中し入院生活には特に関係がない。	(同病院の2種感染症病床のほう)が、窓や部屋は大きくて明るく開放感がある			
H	一般	同一病棟内陸圧区域	ユニット	不可	同一病棟内固定陸圧区域	不可	なし	廊下が狭く共同室もなく閉塞感あり テレビ冷蔵庫も部屋内がない。結核病床は個室として使用時では広いが2つの扉で他から仕切られ最奥(2種より奥)にあり共同室もなく精神的には閉塞感があるかもしれない。			
I	一般	同一病棟内陸圧区域	ユニット	不可	同一病棟内固定陸圧区域	不可	なし	老朽化しており廊下は狭く部屋も狭いのでかなり閉塞感がある			
J	一般	同一病棟内陸圧区域	独立病棟	可能	院内売店ないが、1週間に1回希望を聞いて職員が外の店に買出し	実際には出入り自由になっている	なし				
K	一般	2階病棟	独立病棟	可能	3階病棟	独立病棟	可能	1階の売店自販機で自分で購入	一部可能(一部で屋上に出ることができるが広くない)	狭く古い病棟だが規律が緩くその分業かもしれない	
L	一般	同一病棟内陸圧区域	ユニット	不可	面会で持ち込むしかない 看護さんが買いに行くこともある	自由には不可。許可があれば決められた区域決められた時間に散歩可能。	なし	施設はゆったりしており眺めもよく廊下も広いが看護師1人で同病者も少ないため寂しいのではないかとと思われる			
M	一般	〇〇病棟	独立病棟	可能	△△病棟一部+□□病棟一部	独立病棟	可能	カタログ販売ないし代理購入	不可。以前屋上に出ることを許可していたが、タバコ(火の不始末)や非行など問題が多かったため不可とした。	なし	業後長期を起しているが廊下は広く明るい感じであり圧迫感はない
N	精神科病院	同一病棟内非陸圧室群	独立病棟	可能	同一病棟内陸圧室群	独立病棟	可能	売店へ伝票依頼し病棟に届けもらう	不可。しかし塗抹3回陸圧性化すれば敷地内の散歩は可能。	お小遣い(入院費に含まれる)でおやつ、院内催し物(精神科共通)	比較的ゆったりしている
O	精神科病院	同一病棟内非陸圧室群	ユニット	基本的には不可	(家族が購入しない場合は代理で職員が購入する場合もあり)	半分行。非陸圧区域からは、時間を決めて、他の病棟とは離れた広い庭に出ることができる。陸圧区域から直接出ることはいできない。	中庭の他、一時的外出許可がある	廊下は広く病室もゆったりとして窓が広い。患者が少なくなため開放として寂しい感じが静かで長期入院には比較的適しているように思われた。			
P	精神科が主	同一病棟内非陸圧室群	独立病棟	収容実績なく不明	収容実績なく不明	不可。状況によりマスク着用のうえ、屋上庭園の散歩を許可する場合はあるが、原則隔離解除基準を満たした場合のみ。	(アメニティが必要な長期入院者はほとんどいない)	変形した不正形部屋でわりと狭く感じる。病床単位運営で部屋内の方に長期に隔離されるとかなりのストレスと思われる。			
Q	一般	同一病棟内非陸圧室群	病室単位運営	不可	代理人(家族付き添い等)が購入する(なければ職員が代行することあり)	不可。状況によりマスク着用のうえ、屋上庭園の散歩を許可する場合はあるが、原則隔離解除基準を満たした場合のみ。	(アメニティが必要な長期入院者はほとんどいない)	変形した不正形部屋でわりと狭く感じる。病床単位運営で部屋内の方に長期に隔離されるとかなりのストレスと思われる。			
R	一般	同一病棟内非陸圧室群	ユニット	可能	看護師が依頼を受け、サービスセンターへ依頼し院内のコンビニで購入され届られる	不可	特になし	部屋も共同室も広く見晴らしがよいが、数ヶ月の入院だとつらいかもしれない。ストレスがたまってしまい病院職員付き添いで発散のため散歩に行っていた事例がある。			
S	一般	同一病棟内非陸圧室群	ユニット	不可	看護師が依頼を受け、サービスセンターへ依頼し院内のコンビニで購入され届られる	不可	重症者が多く入院期間が短いためアメニティの不足はあまり問題にならない。	部屋はそれほど狭くはないが3重扉があり廊下も狭く共同室なく、廊下から見た場合かなり閉塞感がある。長期の隔離は困難そうである。実際にそういう用途には使用していない。			
T	一般	同一病棟内非陸圧室群	ユニット	不可	(家族に行ってもらえない)	不可	テレビ視聴は感染症病床のみ無料。	見晴らしはよいが病室はかなり狭い印象を受ける。長期の療養はかなり困難だが、使用状況からは問題少ない。			

表6.3.アメニティに関するその他の状況